



チリンと鳴る音も和の風情
たっぷり。ガラス製の風鈴
(2,500円～・税別)。

暮らしの中に 滋賀の 風

Shiga-nized Life
Scene

2

普段使いにしたい 涼を感じる黒壁ガラス

日本の夏に涼やかな 風情を添えるガラス器

夏のテーブルにガラスの器をただ一つ。それだけで日常の食卓がいつもと少し違って見える。ガラスの清らかな透明感、光を受けて広がる繊細な陰影がひんやりとした涼を呼ぶ。

長浜の黒壁ガラスは、黒壁スクエアにある工房で若手職人によって一つ一つ手づくりされたもの。人の手から生まれたガラスはやわらかな輪郭線を持ち、掌に心地よくなじむ。同じデザインでも作るたびに一つずつ微妙に表情が違うグラスや器。その中から自分だけのお気に入りの一品を探すのも楽しい。

長浜の新たな名産品 黒壁ガラスの魅力

長浜の新たな名産品となることを目指した黒壁ガラス。今では定番以外にも作家の個性ある作品が数多く作られている。吹きガラス、スタンドグラス、ガラスの表面に彫刻で模様を描くグラヴィール、ガラス同士を熱で接着するフュージングとこれらのさまざまな技法が一堂に揃うところは日本では珍しく、これらが融合されることで、黒壁ガラスの魅力が今後さらに広がりそうだ。



さりげない小さな花がいっきもと。スクエア花器は長年の人気商品(小1,800円・税別)。

滋賀を思い起こさせる やさしい風合いの器

黒壁ガラス誕生から四半世紀、工房ではより滋賀らしい表現を求めて工夫が重ねられている。ショップをのぞくと、四隅のヒダが花留めになって一輪の花がたおやかにおさまる定番のスクエア花器、底に淡い色を重ね小さな気泡を散りばめた「オーロラ」、琵琶湖の水面をイメージした新作「minamo」シリーズなど、色も形もさまざままで目移りしてしまう。琵琶湖の明るい光をいっぱいまとった黒壁ガラスを日常生活に取り入れて、この夏を爽やかに過ごしてみませんか。

取材協力

株式会社黒壁



1989年北国街道沿いの古い建物を再生し、黒壁スクエアとしてオープン。ガラス工房とショップ、飲食店や土産物店が集まる長浜の人気スポットだ。

長浜市元浜町12-38 TEL.0749-65-2330
<http://www.kurokabe.co.jp/>

琵琶湖の水面を表現した新作「minamo」シリーズ。夏は爽やかな透明のクリアとブルーを中心に、春はピンクや緑、秋冬にはくすみ効いた白や緑・赤など、季節に応じてさまざまな色の器が制作される。ポウル3,600円～、グラス2,600円、タンブラー2,800円(いずれも税別)。

